

ろくおん通信

発行日： 1993年 3月15日

No. 52号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

## 「音声訳」を考える (第3回)

録音製作 清水賢造

内容を正しく伝えるようにするには、基本的な技術として「音声表現技術=音訳表現技術」が必要なことは言うまでもありません。

「音声表現技術」では、セリフとセリフの区別、セリフと地の文章を区別しながら読んでいきますが、「音声変換技術」は、内容をより正確伝える為に、

- ①適切なところに、
- ②適切な言葉を使って、
- ③文章に混乱がおこらないように配慮しながら、
- ④補足したり削除したり、あるいは言い換えたりしながら、

音声に変換していく技術のことです。つまり、書かれている通りに音声に変換するだけでは、内容が正しく伝わらない為に、その不足している情報（視覚で得られる情報との格差）を適宜補う技術といえます。別の言い方をすれば、墨字情報と音声情報との差を認識し、必要な時に適切な処理をする能力ということもできます。音声訳の作業を進めていく時には、どちらも密接に関係してきますが、質的には異なる能力が要求されます。

「音声表現技術」は、文芸書の音声訳の時に、よりその技術が求められ、「音声変換技術」は入門書の類の本の時に求められるケースが増えます。（さらに入門書の類の場合には「録音図書としての作り方=構成処理技術」も重要になってきますが。）つまり、原本の種類によって、「音声表現技術」がウエイトを占めるものと、「音声変換技術」がウエイトを占めるものが出てきます。音訳者は、このどちらの技術の向上も求められます。しかし、

「音声変換技術」の研究はこれまでほとんど取り組んでこれなかった分野であり、これからといった状況です。『レコーディングマニュアル』などで様々な処理の方法を覚えても、それをどんなときに、最的確な処理を行えるかは、実践の中で少しづつ会得していけるものです。ちょうど将棋の駒の進め方は覚えても、実践ですぐに役立たないのと似ています。

また、この分野の研究では、漢字などの変換では点訳の作業とも共通するところがありますので、共同して研究していく事も必要だと考えています。

さて、音声訳に関する様々な「技術」が出てきましたので、ここで一応、音声訳に必要な「技術」を整理してみますと、

- ①「調査技術」：読み方の分からない事項をすばやく調べる
- ②「録音技術」：音声をクリアーに録音する
- ③「音声表現技術」：長時間聞いても疲れず、よくわかる
- ④「構成処理技術」：利用者の使い勝手や聞き易さを考える
- ⑤「音声変換技術」：必要な時に墨字情報と音声情報の格差を補正する

の5つになります。

「構成処理技術」とは、これまで「構成上の処理」とか「音訳上の処理」とか「音訳処理」とか、「処理」と言っていたのものを、「音声変換技術」と「構成処理技術」とに分け分けたものです。利用者の使い勝手を考えて、より便利なように構成したり、注や図、表、写真などの処理をよりの確に行えるようにすることを「構成処理技術」と呼ぶようにしました。

「構成処理」で決めたことは「録音図書凡例」で断ることが多くなります。

例をあげれば、

- ／図・表などの処理に関する事でその場で読まず、別テープにまとめて読むような場合。
  - ／原本の記載順序と大きく違った処理をする場合。
  - ／予め知らせておいた方がよい注などの処理。
  - ／文章中の引用文を「カギ（カギカッコ）・・・トジ（カギカッコトジ）」などと処理した場合。
  - ／索引や写真などをすべて省略した場合。
- などなどがそれに該当します。

音声訳者は原本全体によく目を通し、図・表・写真などを含めて全体をどう処理するかを決めていきます。「構成処理」は、音声訳にかかる前に、音声訳者と職員とが相談して決めますが、全体によく目を通しておかないと間違った判断をすることにもなります。原本を読みにかかる1ヶ月～2ヶ月前に渡せるようにしているのはその為でもあります。

つづく

### 正誤表から・・・その27

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
平生	ヘイセイ	ヘイゼイ	三宝	サンボウ	サンボウ
嘲る	アナドル	アザケル	療治	リョウチ	リョウジ
茶頭	チャトウ	チャドウ	雑駁	ザツバク	ザツパク
酷吏	コクシ	コクリ	転封	テンポウ	テンボウ

## 二通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その14

小指	ユビ ユシ	五指のひとつ 小さい指物	三品	サンボン (仏) 上品、中品、下品/総称 サンピン 3つの品物、種類
自重	ジジュウ ジチョウ	そのもの本体の重さ 自分の行いを慎んで軽々しく行わないこと。	死体	シタイ 死者の肉体 シタイ (相撲用語) 力士の体制が崩れて立ち直れない状態
死水	シスイ シスイ	流れない水 末期の水	認め	ミトメル 良く気をつけて見る シタメル 整理する、処置する、書き記す

## お知らせ 「枠アナが変わります。」

新しい本から各巻の枠アナが変わります。これは「日盲社協」の録音図書製作基準で枠アナの部分が変わった為の変更です。現在は、「〇〇ページの続きです。」というコメントを項目の後に言っていますが、これでは、項目のページなのか、読みはじめるページなのかがハッキリしないという声がある為、よりハッキリさせようと、先にページ数を読むようにしたものです。但し、項目が切りよく始まり、目次でもページ付けしてある時には、「〇〇ページ」を2回言うこととなりますので、盲人情報文化センターでは、最初を省略することになりました。これまで枠アナのコメントはいろいろありましたが、この【1】【2】の2種類だけになります。

## これまでの枠アナ

〇〇〇〇(書名)、テープ第1巻B面。第〇章、第〇節、〇〇(最小項目)、〇〇ページの続きです。

## 新しい枠アナ (1巻A面を除いて、各巻A・B面のはじめ)

## 【1】 項目の途中から始まる時

〇〇〇〇(書名)、テープ第1巻B面、〇〇ページ、第〇章、第〇節、〇〇(最小項目)の続きです。

## 【2】 新しい項目(ページ付けのある項目)から読みはじめる時。

〇〇〇〇(書名)、テープ第1巻B面、第〇章、第〇節、〇〇(最小項目)、〇〇ページ

## 【3】 \*ページ付けのない新しい項目(最小項目扱いしない項目)から始まる場合

〇〇〇〇(書名)、テープ第1巻B面、〇〇ページ、第〇章、第〇節、〇〇(最小項目)(ページ付けのある最小項目)の続きです。〇〇〇(ページ付けのない項目)、<本文>

【1】と同じです。

1993年度 盲人情報文化センター

「音訳講習会」実施要項

- 【実施期間】** 1993年6月8日(火)～1994年6月末  
<毎火曜日 50回程度>  
第1期 期間：1993年6月～1994年3月(午前10時半～12時半)  
内容：音訳に必要な音声表現技術(40回程度)  
講師：新井洋子氏  
第2期 期間：1994年4月～6月末(午前10時～12時)  
内容：録音技術・音声変換技術・録音の順序(10回程度)  
講師：職員
- 【定員】** 10名程度
- 【申込方法】** 所定の申込用紙に記入のうえ、郵送(または持参)する。  
申込用紙は希望者に盲人情報文化センターから郵送します。  
電話 06-441-0015(担当 清水)
- 【申込〆切】** 1993年4月30日(金)までに必着
- 【試験日】** 1992年5月18日(火) 盲人情報文化センター(9階)  
午前10時までに来て下さい。(約2時間程度かかります。)
- 【試験内容】** 1. 漢字の読み 2. アナウンステスト  
3. 簡単な図表の説明(作文) 4. 面接  
\*注意! 筆記用具持参のこと。
- 【発表】** 5月29日(土)までに本人宛にご連絡いたします。
- 【講習開始】** 1993年6月8日(火) 10時30分～12時30分

音訳グループリーダー連絡会

- 日時： 1993年5月28日(金) 場所： 盲人情報文化センター6階  
13:30～15:30
- 内容： 1. グループリーダー中心に処理の研修。  
( )の処理の研究  
2. グループ交流